

全国学力調査問題から

デジタル教科書を考える

放送大学教授
中川一史さん

動画やアニメーションなどを活用した「デジタル教科書」を正式な教科書とする学校教育法などの改正案が、成立しました。学校現場はデジタル教科書や教材とどう関わっていくべきなのでしょう。4月にあった国の全国学力調査の小学6年生の問題を題材に、デジタル教育に詳しい放送大学教授の中川一史さん(66)に解説してもらいました。

いまの子どもたちは、普段の生活からテレビやスマートフォンなどを通して動画に接しています。そこから何かを読み取ったり組み合わせたりして、自分の言葉で話し、感情を表現するのは珍しいことではありません。そうであるならば、学校でも動画を含む映像メディアについて、積極的に学習活動にも取り入れるべきです。動画を題材に、資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるとか、どうかをみる学力調査の問題は、非常にいい出題だと感じました。動画を題材にした出題は

音声や映像 紙に加え授業柔軟に



本人提供

珍しく、子どもたちを取り巻くデジタル社会の状況を反映していると思います。

子どもたちが生成AI(人工知能)と対峙する際などにも、正しい情報の読み取り方や解釈の仕方の判断が重要になります。

教師も転換が必要

「読み取る」ことや「読み解く」ことなど言葉を通じてはぐくむ国語という教科でこそ、映像メディアと言葉の関係をきちんと理解することが大切であり、デジタル社会を生きる子どもたちに必要なことだと考えま

す。学校でのデジタル学習基盤の整備は進んでいます。さらに今回の改正法案の成立で、2030年度にも変わる次期学習指導要領に合わせて、デジタル教科書が正式な教科書として順次、使われ始める予定です。国が内容や分量を検定し、義務教育では法律に基づく無償提供の対象にもなります。

一人一人の様子を

改正法案の成立は、新たな教科書のあり方のスタートだと理解しています。とはいっても、紙の教科書を否定するものではありません。うまくデジタルと紙の「いいとこ取り」ができるよう進めていくことが重要です。

まず新たな教科書のあり方を考える前提として、「教科書はデジタルと紙のどちらか」というような二項対立に陥らないということが大事です。

これはデジタル教科書を活用していく上では、教師たちの授業観の転換も必要になってくるでしょう。

たとえば英語を学ぶ際、耳から音声で聞いた方が頭に入るし、紙の教科書を目で見ているでしょう。このように紙に加えてデジタルがあることで、子どもたちの学習方法を柔軟に調整できる環境が整います。

私は、24年9月から文部科学相の諮問機関である中央教育審議会のデジタル教科書推進の作業部会に主査代理として加わり、デジタル教科書のあり方に

ついて議論してきました。作業部会では、デジタル教科書の良さが、具体的にどんな教科や学習場面で発揮できるかということや、デジタル教科書を使う場合の留意点、紙の教科書とどのように併用するか、といった検討を進めました。

教室で、子どもたちにタブレット端末を一齐に操作させるような、紙をデジタルに置き換えただけの授業では十分とはいえない。また、子どもたちの様子を教師がしっかりと把握しないまま、一見すると主体的かのような「デジタル放任授業」になってもいけません。

子どもたちがどんなことを調べて表現しようとしているのか。それにはデジタルと紙のどちらが向いているのか。大変ではありますが、一人一人の様子をつぶさに見て回るような形で、子どもたちとのコミュニケーションをより密接に近づけていく必要があるでしょう。

子どもたちが自分で考え、あるいは友達と共に知恵を出し合い、表現する。こうした学びを充実させるために、デジタルや紙の教科書をうまく組み合わせ一人一人の子どもに寄り添っていく。そんな環境を私たちが人がしっかりと保証していくことが、よりいっそう大切になると思います。(聞き手・原田悠旨)

2026年度全国学力調査 小学・国語の問題 一部抜粋

岡野さんの学級では、学校生活をより楽しくするために、休み時間の過ごし方を動画にして学校のみんなにしようかという話になりました。岡野さんたちのグループは、草花遊びをしようかという話です。岡野さんたちのグループは、【動画の一部】の□の部分にくふうしました。そのくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

映像	音声
	岡野・水谷「音を鳴らして遊ぼう。」
	岡野 「みなさん、この音を聞いてください。」 『ピー』(くき笛の音) 岡野 「これは何の音だと思いますか。」
	水谷 「これはたんぼぼで作ったくき笛の音です。」 岡野 「どうしたらこんな音が出るんですか。」
	水谷 「くき笛は、たんぼぼの花の部分を取りのぞいて」
	水谷 「片方のくきの先をつぶして作ります。」
	水谷 「つぶした方をくちびるでくわえ、風船をふくらませるように息をふきこむと」 『ピー』(くき笛の音) 水谷 「このように音を出すことができます。」
	水谷 「くきの長さが変わると、音の高さも変わります。いっしょにふいてみましょう。」 『ピー』(くき笛の音) 『ポー』(くき笛の音)
	岡野 「友達といっしょに音を鳴らすと音が重なって、とても楽しいですね。」

- 映像で示したくき笛の作り方が伝わるように、大事な言葉をくり返し使って説明している。
- 映像で示したくき笛の鳴らし方を伝えるために、草花の一部を具体的に取り上げて説明している。
- 映像で示したくき笛の作り方が伝わるように、注目してほしいところを動作に合わせて説明している。
- 映像で示したくき笛の鳴らし方を伝えるために、鳴らし方のコツを手順に沿って説明している。

解答